

## 正 誤 表

当書籍『風景構成法のしくみ』に表記の誤りがありましたので、ここに訂正しお詫び申し上げます。

### 168 ページ下部 図版下キャプション

正

木が山を埋め尽くすように小さく描かれた。動物は「わからない」と描かなかった。付加物は無く、空は無彩色。

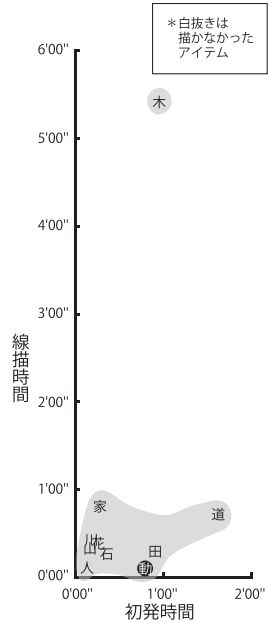
図 6-9 5 回目の描画

### 5 回目施行 (X 年 9 月 25 日)

「転がり込んでいた」友人の家から昨日戻ってきたという話の後、すぐに描画に入った。描画を図 6-9 に、描画時間を図 6-10 に、話し合いの様子を表 6-5 に示す。構成型は VI で、付加アイテムは描かれなかった。

生活上の出来事については、特に変わったこともなくゆっくりしていたとのこと。次回の約束をした後、自分以外の人はどう描いているのかが気になる、という話が出た。

今回は、山への木の取め方について A さんはおおむね満足していたようだったが、見守り手には細かな木の表現が気持ちが悪く感じられた。また川の中の石についての話（いつも置くところがなくて川の中にしてしまう）が印象深く、これよりよい場所があるとすればどこだろうかと考えさせられた。5 回目終了した時点で、A さんも言っていたように筆者も次回で流れが収まるのだろうか心配になった。



散布図の下の方に全体的に固まっているものの、木だけが突出して線描時間が長くなっている。この構造は 3 回目 (図 6) と類似していると言える。

図 6-10 5 回目の描画時間



木が山を埋め尽くすように小さく描かれた。動物は「わからない」と描かなかった。付加物は無く、空は無彩色。

図 6-9 5 回目の描画